

(一部新) 少人数教育推進事業

当初予算主要事業 教育委員会 4頁
人材政策室 (224-2958)
【予算額 1,194,793千円】

基本的な生活習慣や基礎・基本の学力の定着をめざし

平成15年度 小学校1年生における30人学級(下限25人)を実施

平成16年度 小学校1・2年生における30人学級(下限25人)を実施

中学校1年生でのいじめの発生件数や
不登校生徒数が急増する現象(小6→中1)

【考えられる要因】

◇学習環境の変化

- ・ 学級担任制から教科担任制へ
- ・ 英語、数学など学習内容の増加

◇生活環境の変化

- ・ 学校での人間関係づくりへの不安
- ・ 部活動における仲間関係

確かな学力の定着と生きる力の育成をめざし

平成17年度から

中学校1年生における35人学級(下限25人)を実施



《期待される効果》

○学習面の効果

- ・ 授業が落ち着き、個々への指導が行き届きやすい。
- ・ 初期段階のつまづきを把握し、習熟度に合わせた授業づくりができる。

○生活面の効果

- ・ 生徒への声かけや気配りがよりきめ細かくできる。
- ・ 問題行動が発生したとき迅速に対応できる。
- ・ 生徒や保護者と話をする機会が多くなり、生徒理解が深まる。



①中学校1年生での35人学級の実施

(57人、242,421千円)

中学校1年生で35人を基準とした学級編制(ただし、下限25人)を実施し、英語、数学などの基礎・基本の学力の向上を図るとともに、不登校や問題行動などを減少させ、生徒一人ひとりが充実した中学校生活を送ることができるようにする。

②小学校1・2年生での30人学級の実施

(126人、533,862千円)

小学校1・2年生で30人を基準とした学級編制(ただし、下限25人)を実施し、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かくいきとどいた教育を行うことにより、基本的な生活習慣や基礎・基本の学力の定着をより確実なものとする。

③少人数教育を支援する非常勤講師の配置

(265人、418,510千円)

児童生徒一人ひとりの実態や各学校の課題に応じたきめ細かな少人数教育を支援するため、非常勤講師を配置する。